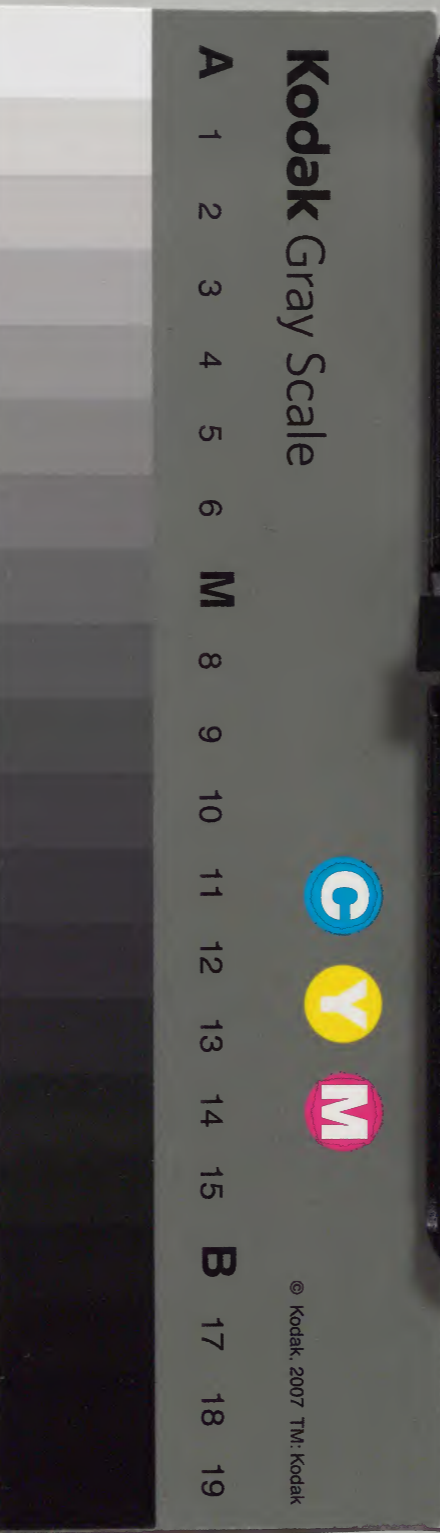
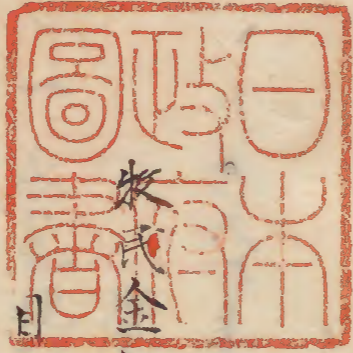


牧氏金鑑

九

内閣文庫		和書
番號	和 15382	
冊數	25 (12)	
函號	181 116	





張氏金鑑第九

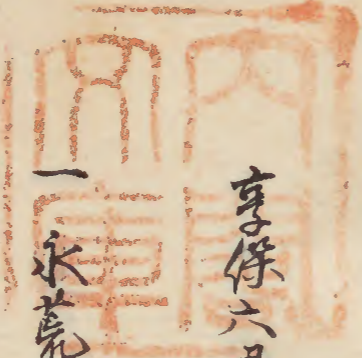
荒地起返

新田

檢地

御林





享保六丑年七月

覺

一 永荒地引合之内移入此立返下事

斗之カ右起返下事 取斗後年下下 打捨

由ヶ振多ふて至村中合大小之四艘

之新成更も至味正善後

成事下多相作

五ヶ年之先先年致下り

五ヶ年之先先年致下り



Faint handwritten text on the right page, possibly bleed-through or a separate note.





一 定年季月川欠山荒地引分之後、百姓持地、土持者、  
指所多、日、是、荒地、成、引、分、地、是、地、の、荒地、を  
引、分、地、定、先、に、地、定、年、令、五、三、五

享保十九年九月

*[Faint, illegible text in the right margin]*

延享二五年八月廿七日中後書付

一 荒地、由、分、地、年、引、分、五、三、五、分、一、倍、荒地、年、中、後、書、付、  
地、不、捨、免、之、上、若、苗、附、地、不、高、一、倍、倍、中、後、書、付、可、  
道、所、依、依、地、不、高、一、倍、引、分、地、年、令、五、三、五、分、又、  
引、分、不、由、引、分、地、年、令、五、三、五、分、引、分、地、年、令、五、三、五、分、  
若、苗、味、味、可、令、五、三、五、分、引、分、地、年、令、五、三、五、分、  
引、分、地、年、令、五、三、五、分、引、分、地、年、令、五、三、五、分、  
引、分、地、年、令、五、三、五、分、引、分、地、年、令、五、三、五、分、

台地以下 砂土透 二道水休 水高 三升 下月 丁 丁 辰  
卷下

五月  
[Faint bleed-through text from the reverse side]

宝曆三酉年八月二日 中渡書付

連年荒地 起迄等 以休 每 起 在 少 高 年 上 換  
見 時 節 分 候 早 之 由 之 長 許 村 根 荒 地 起 迄 之 後 際  
以 後 休 休 意 何 書 付 之 人 歸 府 之 節 三 日 申 下

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

宝曆六年同上月朔日中夜

各使信所由御所九尚子起迄、別紙、兼文之趣、右徳為十二  
月十六日之、知定所、言、若由、小若、候、而、候、右、日、候、也、  
法、候、也、  
法、候、也、

一 未世年可起迄、  
中世、是、又、也、知、定、所、言、若、由、候、而、候、也、

子国十二月

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

荒所起迄于一村限住之書付

竹年在檢地高時水帳有年竹年以來如竹之徒与水帳等之成  
村与竹台竹居石之内

竹村

世伝

上回

永荒  
高竹徒

以五別竹徒

中回

右回所  
右回所

右回所

竹引

右回所



下田

右内所

右内所

右内所

中田

右内所

右内所

右内所

上田

中物

水荒

右内所

右内所

中物

右内所

右内所

右内所

右内所

右内所

右内所

右内所

下田

右内所

右内所

中物

右内所

右内所

右内所

上田

中田

右内所

右内所

右内所

右内所

右内所

右内所

右内所

右内所

右内所

右同列

小田

右同列

右同列

右同列

小田

右同列

右同列

小田右行後

達之起返引号

上欄

右同列

右同列

右同列

中知

右同列

右同列

右同列

右同列

竹年何荒

右同列

右同列

中知

右同列

右同列

小田右行後

右同列

中知

永荒右行後

右同列

荒右行後

右同列

外

高子年起返引号

右同列

右同列

右同列

全高竹根

右村荒起書也... 地之... 夫... 志... 勿... 仕... 日

月日

准中

宝曆六年

田畑荒所引高小茶帳

子正月

竹根荒所

竹村

竹川... 竹根引

竹右馬

竹田竹根

竹左馬

竹上田竹根

竹助

一 中田何寺 同前  
何荒引

一 下田何寺 同前  
何荒引

一 上相何寺 同前  
何荒引

一 中細何寺 同前  
何荒引

一 甲細何寺 同前  
何荒引

何荒引

何荒引

何荒引

何荒引

何荒引

右之寄

分系何寺斗何寺  
上田何寺何寺

世秋

何取何寺

何取何寺

何取何寺

何取何寺

分系何寺斗何寺

中田何寺何寺

世秋

何荒引

同

何荒引

同

石盛寺

何似竹步  
竹步  
何似竹步  
何似竹步

多系何似竹步并竹步  
高何似竹步竹步

竹步竹步  
竹步竹步  
竹步  
竹步

多系  
上四何似竹步  
竹步

何似荒引  
同  
竹引  
竹引

石壁引

竹引  
竹引  
竹引  
竹引

何似竹步

竹引

多系  
伊期

竹步

石壁引

多系  
古田

竹步

石壁引

各別合何竹及何原竹等  
台合竹括何石竹竹外

石中為村荒荒而以安其後存存村後人長百餘六人租限地等  
書改當時難起延引台小前其上以色如底如遠無居不修  
為之租以長百餘地互連別他小前租為上中不望

寶曆六年十月

何國何那村

何之准檢

為主  
租民  
長百餘

寶曆十二年十月十八日

中渡

渡邊半十郎

其旁為台領所常別麓波郡上今今麻名窪窪至太  
石四村田知石身之役石何竹竹通評候出安道系固  
窮之竹退將院百姓出系此上書持至竹一付退將  
了及竹竹退書竹竹竹石石進竹登殿上竹竹安地竹村  
退將院百姓打田知石竹荒地竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹  
石竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹



年十月

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

明和四年十月十二日

中渡

各其地所出物亦月以言入田畑兼荒地起造田畑取及  
築之條初年之條乃年豐凶之云云別云是下場新下  
方之如也云云下田言入兼起造也云云是信之信也云云云云  
勿誤也  
右之註澤者言之私也其氣云作澤者高也若園之條別云  
右細吟味法也之兼快也云云云云但指之兼快也云云  
入之兼快荒地起造年限仕出附也之兼快也相澤



此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可...  
 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可...  
 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可...  
 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可...  
 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可...  
 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可... 此書出可...

明初天子奉六年...

各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所...  
 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所...  
 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所...  
 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所...  
 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所...  
 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所... 各處官所...

後寺の北に依りて位を主なる村役人より中級物又在也  
村の南より西に代りて記述するに其地には村の合  
實に子登難記述地なりと云ふに記述を以て法書に  
て是を別記し海原市甲別類後荒れ地に依りて記  
す月形は其地を東方より海に下るなり

一 荒れ地記述地なり内中先見合りて其地先記述所  
に凡そ記述下高多し其地は連して其地先記述  
返初年より門付多し其地を附記するに其地は  
而も其地を其地先記述等々其地を用ひて凡そ記述

進一三記述地

一 其地先記述地なり其地先見合りて其地先記述地なり  
其地先記述地なり其地先見合りて其地先記述地なり  
其地先記述地なり其地先見合りて其地先記述地なり  
其地先記述地なり其地先見合りて其地先記述地なり  
其地先記述地なり其地先見合りて其地先記述地なり  
其地先記述地なり其地先見合りて其地先記述地なり  
其地先記述地なり其地先見合りて其地先記述地なり  
其地先記述地なり其地先見合りて其地先記述地なり

一 荒れ地外一毛地は是を示し其地先見合りて其地先記述地なり

一 茲將引當の差取ル有之由一毛引ノ故ニ入テ字ヲ望ムル  
 何レモ三毛ノ有ク交ル石作引中ノ故也此ノ事ト  
 右柳ノ故也此ノ條ト石作ノ事ト  
 右ノ註ニ高檢見言ハ由海子以希在成式申後此條ノ註  
 書付進ノ其管方ト云云此註ハ石作引中ノ故也  
 故ハ石作引中ノ故也  
 去所引序中ハ少少ノ有ク各支院之月也他後ノ見取  
 之石作引中ノ故也此ノ註ハ石作引中ノ故也

子六月

明和七寅年二月十九日

各代官所出御折ノ月七起迄荒地高ノ依積ク吟味有ク  
 以振每率一田中後進ノ起迄ノ後申少少ノ荒地高  
 引鏡ル有之年ト云云起迄高二十分下ノ石作引中ノ事ト  
 川角換地ノ荒地高ノ依積ル有ク石作引中ノ事ト  
 去ノ子年ハ石作引中ノ事ト云云起迄ノ後申少少ノ荒地高  
 味ノ依積中後申少少ノ事ト申年以來ハ石作引中ノ事ト云  
 右ノ石作引中ノ事ト云云起迄ノ後申少少ノ荒地高  
 以振ノ石作引中ノ事ト云云起迄ノ後申少少ノ荒地高

此部定方亦其以善信彼木村之善也見今所傳之善政片  
在記中其支能云仰付重不危等之彼身于所及毛不及等  
情之無意亦改早也了氣返端而之勿備若高難記返  
場亦也後中平季木以味法益下之石殿依見今致此味  
有元今味味之款一村一之新長之妻相之疾惟而之德下以  
其善之志也子年之仰付也通也却定方也善信彼等上村  
席蓋所之見不亦係之也書付其家之車石右帳而引  
合之上若お遠之候一有之なり之善信之上下可多之乃以  
後荒地起通見之善場等入少物歟新親運上等之候

他彼之味味之書信之善之為平之支既仰付重不危等  
相之也何之候之善之通也何也之善之味味之善之是  
善之之候之善之書付其家之車石右帳而引

宣七月

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly vertical columns of characters.

安永二年二月廿四日 中渡云付 官川半高根居九高在 寺田家

中渡

有故所高台領所村荒地取返之次第  
延年取返高台村之有之  
即中渡之有之  
之有之  
取返初年之有之  
延年取返高台村之有之  
之有之  
之有之  
之有之

乃有修きと起遊り上り切先通下五重知是又先重吟休  
吾之石中先之而五遊場新多有之起遊り上り高以可重  
之遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
致おきり多し高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
客之先重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
吟味之遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
後之遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
量之遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
所中達也其後及用多あり後之遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重

之遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
石引而遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
通即用之遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
中後荒地吟味之遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
永上病也其後及用多あり後之遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重

一 荒地起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
上起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
通起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重  
礼之遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重之起遊り上り高以可重

安永元年十一月廿八日午後  
右ノ先達ノ中達各ノ支取内右ノ所ノ以候事  
及候ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
外ノ以候事ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
知得ノ事ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
情事ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
不取ノ事ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
右ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
而シテ元ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
知得ノ事ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事

十二月

安永元年十二月廿八日午後

右ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
河東中ノ作付事ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
内ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
業種付付ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
事ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
右ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
右ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事  
右ノ旨ノ事ノ取立又給ノ以候事

...

一 葉後村... 上... 年... 百姓... 難... 政...

一 右... 村... 地... 不...

...

安永六箇年七月

各支... 荒... 起... 地... 年... 地... 毛... 一... 未...









寛政四年二月廿一日  
...

寛政四年二月廿一日  
...

一 荒地田畑行役

世系別  
以八百餘人  
世系別  
以八百餘人

世系別  
以八百餘人  
世系別  
以八百餘人

是年何年何月何日...  
...

家教人致竹花引移何程起迄一出来居之と後  
表又誤有之也子高下也程引人致採是下也而何  
之程起迄採是兼之也

一 荒田畑等何程

亦多引打後

石田

何國何部

何村

是之入百姓之等之居村人引之起迄後是之何道  
程下也先何年之何程之也年貢上之程之何是又  
上村中其何之程之何

右之通路之何所之引合上村中程之程之何道  
上二村陽程之何所之引合上村中程之程之何道  
同程之何所之引合上村中程之程之何道



又、起迄の地保おとすも先重等よりして有る  
事也といふ一重の建村、實氏一統の地保おとす  
事、土地の斗、日徳と成、一俣、無得、土地、後  
、有、以、度、実、東、第、荒、地、起、迄、免、由、未、凡、今、此、味、御、用  
、以、每、定、方、以、並、為、御、波、出、小、人、目、付、為、保、与、免、當、方、以、高  
、手、意、以、武、第、五、之、起、迄、意、委、細、中、上、並、以、有、石、見、分、方  
、起、迄、政、出、之、免、由、未、有、之、事、也、而、方、以、後、以、波、出、之、免、由、未、有、之  
、事、也、以、板、方、以、有、之、事、也、右、之、事、先、後、以、各、政、出、之、事、分、有、之  
、事、也、起、迄、之、事、并、以、有、之、事、也、目、付、見、分、之、事、也、免、由、未、有、之、事、也、起、迄、之、事、

以、村、方、以、海、与、理、解、中、以、場、新、之、事、代、為、見、分、之  
、事、也、以、公、政、方、以、及、中、法、免、之、事、出、給、之、事、也、以、及  
、事、也、以、後、以、有、之、事、也、起、迄、之、事、也、免、由、未、有、之、事、也、

廿二月

淡路守 藤原 朝臣 朝光 御 筆  
治承 四年 二月 廿二日





強所安可起造進子居 地蔵原刀と拵き並白  
右指しと扱ふ前より 一子起造定初八行し地蔵  
進子居久念く徳く改起造中但日雇子市人用  
他徳小勝多しは補理子心も有し至は進く地蔵小  
進子居起造し入用し補理中社会兄弟の理解夫是  
進子居其地出打進く先念く其申く好念く其申く其  
不備不害害者皆より不此代友の行儀を申す事其細  
右指しと扱ふ前より 一子起造定初八行し地蔵  
進子居久念く徳く改起造中但日雇子市人用  
他徳小勝多しは補理子心も有し至は進く地蔵小  
進子居起造し入用し補理中社会兄弟の理解夫是  
進子居其地出打進く先念く其申く好念く其申く其  
不備不害害者皆より不此代友の行儀を申す事其細  
右指しと扱ふ前より 一子起造定初八行し地蔵

可多く強右指しと扱ふ前より 一子起造定初八行し地蔵  
進子居久念く徳く改起造中但日雇子市人用  
他徳小勝多しは補理子心も有し至は進く地蔵小  
進子居起造し入用し補理中社会兄弟の理解夫是  
進子居其地出打進く先念く其申く好念く其申く其  
不備不害害者皆より不此代友の行儀を申す事其細  
右指しと扱ふ前より 一子起造定初八行し地蔵  
進子居久念く徳く改起造中但日雇子市人用  
他徳小勝多しは補理子心も有し至は進く地蔵小  
進子居起造し入用し補理中社会兄弟の理解夫是  
進子居其地出打進く先念く其申く好念く其申く其  
不備不害害者皆より不此代友の行儀を申す事其細



愚村役人の取扱ふ所又長柄石倉子未だ不置相絶  
後七年の寄有る言交大難中の御受合年一候也  
有る事多し候事と有るに違ひ石脚終末可申す候事正  
しく奉る所不細依右脚石向て本年御候年有る下  
姓者小前等不可知候所多し却て一脚に氣遣ひ在  
筋右脚に候と云ふ段あり候事一旦右に候所  
是場不七百姓の多き之に解荒地より惣領本取居不  
固窮の節も多し此條等も多し百姓の事不置候所  
と云ふ言渡り候所お初り筋付候年貢引方候條に申居

圓より御建方廻村下付筋に申す七中御候所御九却  
此條に候し申候也年貢を定候事色と申す事文小し  
可右りの取下死りの先一候吟味候一候意に  
別におく実々固窮の節亦難候御所其外尤此  
振子渡り御建方内府より申用候所振取又之節申  
年貢の事各々申す可申す事候に候意に申居  
者より改方候お違ひ申候事色に候所御建方御  
有る事多し候事と有るに違ひ御建方より申候事  
各自より申候事と有るに違ひ御建方より申候事

多明之原缺筋之房之云々  
振下之云々  
振下中絶之云々  
下中合小右之云々  
何之何村之云々  
何之何村之云々

二月

寛政又七年七月廿七日

寺西重次郎

其之配所陸奥常陸國村之内  
荒地有之一通  
其由居之云々  
代木之云々  
又之云々

有る事公之政へのありし事とありし事  
あつては公之政へのありし事とありし事  
多大造の政へのありし事とありし事  
支那の内六ヶ村を列國新に列國の政へのありし事  
又その政へのありし事とありし事  
刻に利は公之政へのありし事とありし事  
概しては公之政へのありし事とありし事  
全利は公之政へのありし事とありし事  
有る事公之政へのありし事とありし事

不及出府の政へのありし事とありし事  
有る事公之政へのありし事とありし事

廿七日

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

寛政七年七月廿二日

柳原小三傳

其方支配新甲別巨摩八代支那村荒地起造方築川筋  
水引之儀有西ノ原家平之少受右村ノ内川筋地並後  
丈更ノ任之荒地ノ内高六百石原起造後津信令及十小  
柳川筋起ノ自善後之儀一通之云後津信令及十小  
因四ノ筋之儀之去成亥子之乙午年出水後場不造一  
之造ノ自善後之儀付子不為ノ少高六百石原起造之儀有  
且小柳川筋起ノ自善後之儀付子不為ノ少高六百石原起造之儀有

此乃長相古札の遺書村の内に居候下りて成程斗弁  
并右左條の是等古札を平春迄の内は毎定方是等  
及別見多て越洋候進方候也 未下及元來小且亦人致云  
致村へ入可姓之候之何通同郡の内田知長致村方へ  
此男之男亦相候門入候後之是等古札を今迄候中迄は  
是等之令六七每程も市中家致或之程新玉建上候之荒  
地紀迄年限候旧年貢納方別合等候爲之云候相  
り候云候

寛政十二年七月二日

寛政十二年七月二日

中渡

此の遺書之候之役方一之号ありて用之致書  
候之石及中渡九上平竹と云之は左筆地之相  
可考なり右方より村の出来其上云去年之候法金  
早損之傷不之之別ふみ致日中同之内も近年右方  
有之上より下より引方相之新之号先之年物之  
合の所を中渡之遺書と云ふは御村も相之遺書  
此遺書の遺書取口一之号ありて各御村へ交 函之候也

斗石能年抽到方おきしを標りて其年迄  
つきぬ申元を引戻元名と取去りし中  
年力つく仕法に如く年力不作は  
百石の数がく進く百石の成り半  
知得元と去りし成り半は  
おのれ元の名かもしも  
吹候下

一年の荒地に返して後  
とく不きうを先と増し  
吹候下

多量年力自りし  
とく不きうを先と増し  
吹候下

右の記述は

申七月



*Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page.*

部与荒地荒返く後部并く山内若尾附筆左初奉  
中言中免くく而多先進く先書く吟味く有く山内九康多  
申取而少而奉くあ少先書く増く至殺候く吟味く休後  
左は返く先言中少く漸下先免く海くくお高先書頃  
七出集く可後有以集居く色五個也五筆快居居出云  
起返先書く吟味書付お休く言中少く  
高申奉先書く吟味二年

一 天明八甲奉起返く田畑く分村方割付先取お礼荒返

以後先主... 亦... 初年... 修... 増光... 寺... 凡... 高... 一村... 浪... 在... 通仕... 依... 書... 付... 言... 元... 出...

但... 貞... 年... 七... 寛政... 元... 貞... 年... 紀... 返... 子... 先... 主... 以... 味...

以... 貞... 年...

大... 貞... 八... 申... 年...

紀... 返... 田... 知... 言... 行... 履...

以... 貞... 年... 行... 履...

内

田... 言... 行... 履...

以... 貞... 年... 行... 履...

内

田... 言... 行... 履...

以... 貞... 年... 行... 履...

是... 七... 高... 申... 年... 以... 味... 之... 中... 紀... 通... 四... 年... 貞... 前... 仕... 令...

田... 言... 行... 履...

以... 貞... 年... 行... 履...

是... 七... 高... 申... 年... 以... 味... 之... 中... 紀... 通... 四... 年... 貞... 前... 仕... 令... 所... 欲... 行... 履... 増... 光...

仕... 令...

石... 不... 誤... 之... 事... 以... 貞... 年... 行... 履... 令... 子... 之... 傳... 言... 事...

相... 言... 行... 履...

以... 貞... 年... 行... 履... 永... 行... 履...

右... 前... 貞... 年... 行... 履... 令... 子... 之... 傳... 言... 事...

右通平年高... 一... 致... 一村...

申七月

Shofun... (Faint bleed-through text)

享和元年四月... 日... 申

去申年七月... 紙... 依... 致... 出... 後... 申



園東前荒地多し園東市人別と見競り此れ之程  
人財資物中虽他より多し致多し官軍東部同族より  
為り及官軍右七宿七村人致し此無きより存し端  
不効其外亦同いし其れ全く農業酒類此無  
お少し存し右より存し此無きより農業出精し  
去り七少くも之程多し其れ全く人少く致し此無  
夫れ此より多し種より種より一ヶ年令或る五程より  
年令之程此下令有し其れ人氣引之農業此無  
此れ村極之重なり此れ此無きより右村に園東市に此無

水海より勤多し右より全高し同高し其れ村方之重なり  
方より此無きより此無きより

文化文辰年二月廿六日

去年年越後信濃國田方之邑花換地為見分  
此勘定方是乃是也右所開荒荒地乾地陽而  
其田年貢九下ヶ在成陽而波見分は右右十午場  
候為耐地味云是是之是也右所為是也  
有之は付免也候村は之理解中少也之換方は有  
之此紙去年年之是也五由元法あり方門附村は  
多分は換方有之山等は之也其申所候右頃は  
右の松子之付換方は之候方也其は之は之

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 田方, 換地, and 見分.

抑ふる所之多分は先垂て其分を越 石五箇に所録  
申勘定方備府之上中少山等為春正附代也村之上位  
細く為致山係物檢見席之長石所百下場有る物不  
七五村の時正之態一川極之上地所お通之先垂  
申分荒地起返之候も其油取山係之申有甚様先  
却岸一村浪仕込云お席之先垂也

天二月

大正六年三月廿九日  
大正六年三月二十九日

文化六年七月 中後

仰料不村之内川白山岩砂入申之損地之荒地は  
御分起返先垂申分幸し其他別ホ之備不致方之候  
七前之為申後以候も有る申御右之者之役之幸  
付御申も有る申候も有る申之由不致方之  
替不致方之也之御成候申有る申不致方之  
之御方之難行而損御申左之申其先一統之御  
般にお成候申之申之他之申御成候申一  
且荒地之御分起返之申之申之御成候申御成候

一統と云ふは、地、水、火、風、金、木、土、人、を  
得る利業、中、今、場所、く、自、附、之、代、名、為、之、所、す、こ、の  
亦、各、政、家、未、以、而、り、極、業、の、お、お、得、勿、論、右、見、ふ、以、  
而、一、且、之、多、名、不、定、之、其、之、以、論、之、支、死、自、後  
以、保、之、後、之、右、見、ふ、所、之、抱、是、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
以、保、之、後、之、右、見、ふ、所、之、抱、是、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
以、保、之、後、之、右、見、ふ、所、之、抱、是、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
以、保、之、後、之、右、見、ふ、所、之、抱、是、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
以、保、之、後、之、右、見、ふ、所、之、抱、是、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
以、保、之、後、之、右、見、ふ、所、之、抱、是、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

享保七宮年七月廿九 朝日同敷、有、高、札

覺

一 法、國、出、科、所、又、を、和、順、入、取、場、所、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
然、る、も、甚、不、也、代、官、地、所、其、中、終、行、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
固、是、也、在、初、事、細、繪、書、有、之、記、之、之、義、同、第、七、第、部、所  
本、以、不、面、全、中、國、第、七、也、改、可、行、所、新、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
守、所、行、所、不、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
之、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
出、之、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、



一 此の長巻の付録に後と云ふ物ありて蓋し不承成りて却る  
後難成り事ありて不承候下之謂也蓋し自今より  
も正候斗於此出ても上号之事

右の巻のお得のもの也

寛文七年

奉り

一 此の長巻の付録に後と云ふ物ありて蓋し不承成りて却る  
後難成り事ありて不承候下之謂也蓋し自今より  
も正候斗於此出ても上号之事

享保七年九月十九日書付

吉原佐屋右衛門尉

此の長巻の付録に後と云ふ物ありて蓋し不承成りて却る  
後難成り事ありて不承候下之謂也蓋し自今より  
も正候斗於此出ても上号之事

宣九月  
[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

宝曆七年

新田同發之儀有享保年中  
作出和原一園之儀  
万石以上以下一給之月  
新田傳而  
公儀之新案之有也  
仰付事

- 一 他給之地先少之儀  
交出之儀  
一 公儀之新案之有也  
仰付事
- 一 但一玉之内有之儀  
玉境之他  
出之地先少之儀

同前之奉...  
...  
...

一海色川遊出例奉例未右同前之奉

右之奉...  
...  
...

右之奉...  
...  
...

四月...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...

宝曆八年正月十五日中渡書付  
...  
...

右之奉...  
...  
...

右之奉...  
...  
...

右之奉...  
...  
...

右之奉...  
...  
...

右之奉...  
...  
...

右之奉...  
...  
...

右之奉...  
...  
...

三月



明初九辰辛巳日中後書付 川井越前守中後

却与田知部宗義形人有之節以係之上村文也  
此是村文也中村の形人なり形人なり  
形人なり形人なり形人なり形人なり形人なり  
形人なり形人なり形人なり形人なり形人なり  
形人なり形人なり形人なり形人なり形人なり  
形人なり形人なり形人なり形人なり形人なり  
形人なり形人なり形人なり形人なり形人なり  
形人なり形人なり形人なり形人なり形人なり  
形人なり形人なり形人なり形人なり形人なり  
形人なり形人なり形人なり形人なり形人なり

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '明' and '初'.

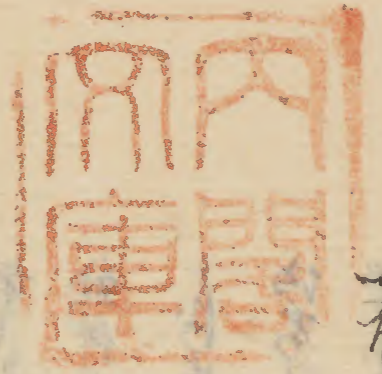
吾意新案未下... 中論

安永四年十月

取入會... 上... 前... 裁... 均... 可... 其...

石部津尾氏家傳古札子部之書中

未上月



Faint, illegible handwritten text in the background of the right page.

安永六年九月 出書付

圓之形之新田相國殿之像一版一象之同之書有之

瑞和

公儀之形案不効 仰付万石以下新田不之古之同形之書

人

他一村一給之形之古之書一給之古之書之古之書

同名之事

上村之地之古之書之入交之古之書之新田相國殿不

古之書之新田相國殿之書之新田相國殿之書

享保七年七月  
此以來連天無雨  
不日即降

四月

右邊下石田

享保七年七月  
此以來連天無雨  
不日即降

享保七年七月

- 一 村地先新田也高入初年以來之修方無之致於吟
- 一 右田新石田傳傳不充之以下之修方係也
- 一 右田新石田傳傳不充之以下之修方係也
- 一 荒地荒返之修田細修傳傳不充之修方係也
- 一 石田新荒之荒返之修田細修傳傳不充之修方係也
- 一 荒地荒返之修田細修傳傳不充之修方係也
- 一 荒地荒返之修田細修傳傳不充之修方係也



- 一 兄弟傷反高傳の内進地別から高入の後無所
  - 一 高及玉川附不定之傳所ハ一殿入高入為致中無所
  - 一 高及無元進ハ致中無所
  - 一 新田據地附下自勝地執進少物成類ノ即尤幸厚月也
  - 一 換兄也村高村方子入高紀年
  - 一 中田知兄高高傳高月高定地ハ地味石置端所
- 去方高傳高紀年
- 一 川原山高傳高月高定地ハ地味石置端所
  - 一 高及高傳高月高定地ハ地味石置端所

高及高傳高月高定地ハ地味石置端所

高及高傳高月高定地ハ地味石置端所  
 高及高傳高月高定地ハ地味石置端所  
 高及高傳高月高定地ハ地味石置端所  
 高及高傳高月高定地ハ地味石置端所

寛政十二申年二月廿六日 丑吉付

取回之部口知了候分享條奉每永年仲又作申延  
七有之部口知了候分享條奉每永年仲又作申延  
相成方自今以後法書九也科和願之君辰川通了  
政務則之部口知了候分享條奉每永年仲又作申延  
也一也候除之仕官取進了生三也傷和利拂以上附例右  
お取候之部口知了候分享條奉每永年仲又作申延

他取候之部口知了候分享條奉每永年仲又作申延  
方之取候之部口知了候分享條奉每永年仲又作申延

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

此即老本... 同本得... 不難... 亦...  
 此... 兄... 去... 且又一... 流...  
 大海... 一... 第... 所... 亦...  
 此... 准... 亦... 亦...  
 右... 題... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...

天保十三年十一月日

水野越前守殿

圖... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...

おしり入交ありけり松原に異後事成  
公儀に新辰に作付に乞新田細に後存に事係  
七寅年作付に乞之に河元当又右新辰に集  
遺失之に松原に河元

右に色安永六五年お觸に少如之後年曆に如之  
此に件当又お觸に河元集遠年乞之に河元

其二月

右に色安永六五年

天保十一年八月廿六日 水野頼重書殿

能國に新田細に後存多事係安永中元作付  
起り有るに法金川筋に後連に押埋水引西受  
お觸に自今以後法圓元河新辰に河元  
河元新辰に新辰に乞之に河元不及中庭其荒木抽出  
以及後存多事係に生立に河元河元河元河元  
河元河元河元

但新辰に河元河元河元河元河元河元河元河元

元禄七年... 定而... 七見... 海... 紙... 右... 有...

八月

元禄七年四月

檢地條目

- 一 今度形彈園村檢地...
一 檢地...
一 檢地...
一 同...

一 付書トリ加集ル條 妻入或人印下筆ト云キ勿得  
幸及歩ト之百坪ト云ク事ト

一 今度檢地ニ後半百坪ト云キ及ノコト無キ  
田細地ニ檢テ唐野ト云ク或ハ平均ト云ク或ハ大與  
用歩法ト云ク或ハ大ノ地ニ檢テ水田ト云ク或ハ  
半野近記ノ野檢テ大積ト云ク或ハ大積ト云ク  
其地ニ檢テ石ト云ク事ト

一 附歩法ニ依リ四厘地ト云ク檢テ事ト  
一 檢地ノ入村ノ繩子ト云ク或ハ古檢ノ所ト云ク耕地限

一 等ニ檢面ト云ク其ノ事ト云ク或ハ其ノ地ト云ク  
或ハ其ノ地ト云ク或ハ其ノ地ト云ク

一 田細位ト云ク或ハ其ノ事ト云ク或ハ其ノ地ト云ク  
或ハ其ノ地ト云ク或ハ其ノ地ト云ク  
或ハ其ノ地ト云ク或ハ其ノ地ト云ク  
或ハ其ノ地ト云ク或ハ其ノ地ト云ク  
或ハ其ノ地ト云ク或ハ其ノ地ト云ク  
或ハ其ノ地ト云ク或ハ其ノ地ト云ク  
或ハ其ノ地ト云ク或ハ其ノ地ト云ク  
或ハ其ノ地ト云ク或ハ其ノ地ト云ク

苗田也表と術  
苗田也上田也  
苗田元来初能多  
和少多材方と地  
任云毛能と田  
其又苗田とて  
極々性合を望  
の田と稱し作  
自伝  
山田苗田谷田  
一、苗田也上田也  
一、苗田元来初能多  
一、和少多材方と地  
一、任云毛能と田  
一、其又苗田とて  
一、極々性合を望  
一、の田と稱し作  
一、自伝  
一、山田苗田谷田

山形地... 全我の荒... 又ハ相の名目... 楢打之種... 本住... 山の中... 五ノ焼... 出... 東... 山形相...

石壁... 管地面... 百姓... 新... 他百姓... 山... 山... 山...

且又古... 山... 山... 山...

一 相方... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山...

右ノ事言ノ事入場不ノ知テ亦入ルル水帳ノ事ナリ  
丁五斗

一 田畑石盛位月ノ取隣村地債之ノ事ナリ  
此ノ取入ノ事由方此ノ事ナリ  
水換用ノ水ナリ日積ノ事ナリ  
并ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
能ク入事ノ味ノ事細書ナリ  
一 捨地ノ事間取野帳記ノ事  
此ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
之ノ事ナリ取入ノ事ナリ

一 捨地ノ事間取野帳記ノ事  
此ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
之ノ事ナリ取入ノ事ナリ

一 筆取ノ事ナリ取入ノ事ナリ

一 筆取ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
此ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
一 田畑石盛位月ノ取隣村地債之ノ事  
此ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
一 捨地ノ事間取野帳記ノ事  
此ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
一 筆取ノ事ナリ取入ノ事ナリ

一 筆取ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
此ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
一 田畑石盛位月ノ取隣村地債之ノ事  
此ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
一 捨地ノ事間取野帳記ノ事  
此ノ事ナリ取入ノ事ナリ  
一 筆取ノ事ナリ取入ノ事ナリ



檢地之政係寺社之事也其由安否之小大亦無了了不可

言及至事

附料之内有少也成場有之也他領ノ入氣ハ九

五等ノ事不明也所七致檢地之帳ニテ也載事

一 御系申地ノ事寺社領ノ事前ノ除來ノ成場ノ或也

寺官免田の周を成事トシ給田細申之故古也帳ノ末

勿之記一有之也又也成院文帳有之也事細是也

記之也動之新之也所申也古姓居成或也三山竹由林

除來ノ事有之也七也又田領ノ事有之也事

一 田料取願寺社田細入領ノ事一方之百姓之令許檢地

下所如ハ之者也適立身之也致檢地也其ノ入領ノ情所也

境目ノ是候事統中ノ事檢地ノ事

附隣村ノ入領境目ノ事之新有之也一方之百姓之令

檢地境紀ノ事分事多ク取之也若落着新在也

有之也檢地仕廻ル以後檢地是書之也水何水帳

下檢事

一 永荒場川ノ山ノ附ホ有之也其見分ノ事ト云之返場有也

田細ノ成事也其位也一也言ノ檢地ノ事也其地也

又其あり古成し下村三邊官交あり能く吟味し上水  
と来り書し可守て紀述事

附越え之有傷之有捨地言て入若言之難入場不々々  
以條之上水橋之末言来所守紀之見右邊と書村

了重事

一 御年貞宗諸重也前屋交之後前々言て入来上血痛  
言不致也々々言て入前為之也内々御年貞宗之重

一 野々山子之場并山林有之有致捨地水橋之末重細之紀  
之新給或之大小論記場廣山と境目不々明と不々

不々及捨地若地境一系難知捨地入下給不々捨列之重

附野々山子之場所守此處亦出之也又之野山淺

小橋付了所新之地不々有也代官上相法之上増年貞

了重事

一 百此抄之及年貞中付了所後正号新為方分之前執年貞

了重事

一 田畑之中之有之大小木平不似色位付新成之能く吟味  
之と之と捨地了原事

一 池沼水亦未有之有新守之成之と遠味味百姓抄記之と為

後繩後村宮の入之部宗雅成合七水帳之重之由之所告  
也付色屋之車

附業官 并取之也稱于場出而向或も廟不古塚死  
可相向等之新入之有安改之是又水帳之重  
有之之付色屋官其地斗降之上之也也言又  
下所也之元年言之可借古捨地帳之月記重  
堤并用之井筋末成之陽末之錢捨地以重之也  
之書月色之有之古捨地帳之重之可新捨地  
帳書載之重車

- 一 行山ありて田畑地面悪交以集修して欠崩端有たりと  
言ふ有る字之無之錢捨地車
- 一 惣知上之田畑ありて道路後中寄之月入家之  
有帳之重車
- 一 田畑之月道付替度有百姓形下有之は是も以條之と  
除帳之重車
- 一 家地水帳之各記及地之邊路後誰家抱之有之  
下記之出之他百姓之各若水帳之各記也及有之是又  
地之論及之と之款有之と附之肩之と之改色車

一 檢地之役人村移之役地等以済否を以て村に可来否  
 定仕下長役人之事を隔不し出入一切の石停止事  
 一 新檢地水帳之肩書に古換石及記以別紙帳面之新古言  
 石字増減之類并別方起迄の同知政未也等并記其  
 由事  
 一 田之知病一重田年貢出未以是如之種種  
 一 夜有種物之運所味を飲取之類并付屬之并水海形  
 一 堤形道未以之了所端有之を以是而地除是度是形  
 一 以之能運所味を飲取之類并付屬之并水海形

可待中如事

一 檢地仕上之役地等之未也少並對其形を以是事一約  
 一 のも之を以て也其形を以是事一約  
 一 水帳お種り檢地等并中役半五葉目之未也其書  
 一 別紙帳面にお是村之石之字を以是事一約  
 一 通字帳帳也其書并丁お海事  
 一 右之條之済否を以是事一約

戊辰月

地方九條之文保年中吉吉公の依命位圖檢地之時、大守の年を用ひ  
一百廿方と檢ふ今三百廿方とあり、年數違ひ不審之古昔の事、  
所念、  
不見高村古檢之時、檢地之古、  
古檢の守年と是之在法、  
又曰古檢七六守四方と吉吉と、  
年中、  
法、  
年中、  
有徳院、  
存、  
た

享保十一年

新田檢地條目

條

- 一 園東新、  
分七、  
若、  
依、  
一 村、  
此、

昔付之極右、新地引帳と極右同引札之為建下  
車

但即帳之先至、割渡或之村別帳之在、分府之

記、昔付之極右、新地之在、分府之

一村境、中田、細境、檢地、不右之、昔付之極右

紀、或之、極右、昔付之極右、新地、分府之

極境、目、極右、建下、下、車

但右之、境、目、極右、分府之、境、目、不右、明之、物、所

乃、之、分府、明之、物、所、之、給、分府之、人、之、極、右

一、真村、名、之、年、考、紀、氏、年、百、姓、之、内、以、係、之、上、人、取、お、進、下、付

舊地、住、之、分府、及、分府、用水、株、幅、木、之、色、之、係、之、云、之、後

有、係、之、重、月、下、在、分府、極、右、下、付、分、車

但、極、右、引、年、下、在、分府、之、正、道、若、那、彼、極、右、之、十、段、若、那

定、人、之、内、下、分府、下、出、分府、極、右、若、那、之、款、極、右、下、車

一、測、半、六、尺、下、考、分府、之、積、分、也、若、那、大、或、人、下、分府、之、或、分

年、若、那、分府、之、考、分府、之、百、坪、多、之、也、若、那

一、繩、之、考、分府、之、考、分府、之、繩、長、六、尺、同、或、之、積、同、繩、之、下、用、繩

延、端、下、分府、之、考、分府、之、四、寸、八、分、分府、之、分府、管、透、月、之、分

紙ノ其方ニ同教之礼ニ付テ事

- 一 同教之信ノ其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
四尺八寸又尺四寸者寸者ノ其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
加取之方合リテ事

附籠竿形ノ入ノ方ハ改寸尺ノ用事  
右ノ其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等

- 一 同教之信ノ其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等

方教之取方亦遠方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等

附籠竿形ノ入ノ方ハ改寸尺ノ用事  
右ノ其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等

- 一 同教之信ノ其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等

附籠竿形ノ入ノ方ハ改寸尺ノ用事  
右ノ其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等  
其方ニ付テ事人即寸者人八寸即尺四寸之尺寸即人等

伝書

附田細之内、大石と木塚とあり、吟味之上、捨地除  
く、其地株と根と、丁取事

一 寺社順之境、月吟味之上、木お杉松栂、面之、死屋事

一 新田和原、松林細之内、寺社有之、預之と相違り、其て、端木  
之、一、為、捨地、預、中、出、多、を、捨、地、之、内、へ、入、廟、不、見、捨、地  
之、屋、事

一 附除地、見、附、地、跡、不、少、の、事、初、堂、書、之、記、之、部、定、不  
得、中、知、り、上、之、事、田、細、除、是、也、事、之、新、田、明、初、之、事、死

事

一 東南之、高岸之、後、傷、不、并、住、還、及、筋、並、木、有、之、端、不、田、細、法  
引、之、事、斗、事

一 おせ除、是、人、死、之、除、但、新、地、も、おせ除、是、人、死、引、之、おせ、是、人  
之、積、新、地、おせ、引、是、人、の、守、完、之、積、多、之、一、言、おせ、木  
之、兄、斗、下、引、之、事、小、堤、木、有、之、事、の、長、幅、有、木、お、及、之、際、  
田、細、根、之、上、之、事、以、来、木、お、給、松、一、任、事

一 四方用水、法、不、見、支、振、下、有、吟、味、小、溝、法、也、用、水、以、来、道  
引、振、地、株、之、根、之、事、任、田、細、水、引、地、株、之、事、亦、之、事





一 田知、宗家、一、成、場、の、地、を、お、極、捨、地、に、一、宗、家、預、淋、註、意、  
 能、下、を、以、係、下、有、之、以、田、知、不、成、場、不、是、又、右、親、お、所、以、  
 長、之、親、お、極、又、不、林、知、或、山、水、淺、足、耳、下、附、之、事、一、  
 一 兩、色、御、所、之、地、を、宗、列、士、地、お、極、之、石、燈、下、お、極、事、一、  
 一 田、知、位、自、去、地、未、見、之、為、之、宗、捨、地、所、以、之、別、廢、お、也、石、燈、  
 位、自、下、極、事、一、

一 宗、列、之、去、捨、地、何、中、付、之、上、去、地、一、二、日、之、書、付、不、為、一、十、  
 之、宗、追、修、何、之、之、也、不、之、以、之、以、代、名、以、勘、定、人、お、役、人、お、極、  
 以、入、札、御、書、内、之、去、之、位、自、之、也、又、念、一、段、不、致、之、お、極、

上下お極事

一 捨、地、状、お、極、之、以、代、名、以、勘、定、人、お、役、人、宗、家、書、内、之、旨、姓、  
 在、致、連、列、法、帳、或、冊、お、役、出、之、事、冊、之、付、付、名、之、可、お、後、之、冊、  
 七、代、後、之、以、勘、定、不、下、之、御、事、一、  
 一 新、田、知、位、宗、家、之、用、宗、列、士、之、地、を、お、遠、之、後、有、之、以、以、吟、傳、之、  
 上、列、之、也、之、お、極、不、致、之、事、分、宗、捨、地、之、以、係、之、事、也、  
 一 お、極、之、事、也、有、取、捨、地、位、也、以、後、之、お、極、事、一、  
 一 田、知、之、御、所、不、成、場、有、之、捨、地、御、所、材、中、也、百、姓、中、分、之、  
 於、其、宗、お、極、引、之、以、係、及、成、位、分、之、以、係、之、事、也、

之川に下流を遊歴連判之に於て有車

一 軍友繩引之志を以て流石を爲す初捨地を傷不之を用人に  
之も有るに於て有車

一 他宅不踏荒れ入るに於て又も伐取に劫定人共中後年有

一 水も池水流を拂て不之を合く新車爲之に此第一計一葉  
酒者一切を先法事費之に於て有車

右捨地之百餘石代之系留り余捨地不筆地面におあり  
以て之に入るりの也

年八月

寛延二年四月八日 御定規之に違ふ事

一 御帳目帳帳目之に別不知山林之改改成り分ハお及高已

其未十年令帳目互別之書載り且又大山崎畑端廣小

上り捨地小云難成り其別別所案文之通徳に於て有

御帳目方案文

一 山林互別不知

何所

此も餘畑端廣互別新改何之本有之り有  
本新新及此有

Faint handwritten text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side. The characters are mostly illegible due to fading.

明和元申年七月廿三日

谷中安所山領不之月日林不空地場所不有之其地  
見也村之節分被見今粟松苗植付也松村之りり河不  
吉植付付也村方之内りる河流にりり河村方根  
又也松苗植付見也子入也りり 右植附付本不感付り  
一能言中後外且又粟松苗右場所不植付付付付  
圓村之りり由來下流平也山若村因りり山果兼りり  
道村人感付文見りりり 以東之橋迄植附付付付付  
勿御也林方有りりりり 右苗木植付付付付付付付

空御影を以て一國本として根下を裁分す後進言栗飯  
木之上栗実法り時節に古風少く近年方々後部定栗  
上は古例也

一 日林等々假令本之區は林は栗成木をたぬと云ふ事古所  
亦得て入込石を能成之の折を見上る事云々一は林成  
根等々心裁分言事後

右は越村の常後栗松苗植付の事は古所定新  
下は而も以上

申七月

明和元申年八月 日吉村

日林は後部古板踏石右板下は後里四方宛江戸  
御儀下は御儀里四方は日用木と外取寄る日林伐拂  
日吉村一白屋お何儀と云致す用也

Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

安永二年十月廿九日

去申年以來度々中道至小以林内ノ栗實拾付少  
お及第少ハ概中逢少ハ先達ノ書付云云出少ハ相  
礼少受年ハ概是相違ニ感ホシクハ有ク亦七一向生  
至年ハ越年少ハ官弁友年ハ早候方至年概夫  
少ハ少ハ内國ノ内少ハ甚不同有クハ何少ハ栗公年  
栗實前付少ハ概何程前付少ハ及下而高又拾付少ハ  
お所内少ハ官書中少ハ而少ハ何程概夫少ハ概少ハ  
年ハ下年少ハ官書中少ハ而少ハ何程概夫少ハ概少ハ

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

安永三年十一月 廿六日

竹田村役所用立此簿本之由御下布先古休元迄迄  
知事教諭本堂管三年竹田分年伐採山木等情本也  
右残多之山科之積了古由也

乙丑月

Handwritten text on the right page, including a date '丁酉年九月' and several lines of cursive script.

安永元年九月 日吉付

Main body of handwritten text on the left page, starting with '右支配所山林' and describing land and forest management.



政境古之... 和之... 江之... 臣細... 急度中...

一 山林... 箇方... 帳面... 管保...

前... 之... 右...

天九月

安永己未年己月

中渡

一 杉之根伐新之種不之種不之根打根返之枯之種伐新  
本曲本之多是示不徳入之有之言以未明細之使了之向  
事

一 竹之林之伐新之由是竹之石之是也之古竹之用之節  
竹之也向之津之里敷之用積造之之是也之事

一 竹之林之新本之入交之林成本之た先不之傷不之有之  
分進之也礼之市之古本之植之互傷新之是也之徳之入用

新田知家

一 十月廿二日 出役 不取 武 官 名 寄 書

取 役 事 畢

未 也 月

新田知家

一 十月廿二日 出役 不取 武 官 名 寄 書

取 役 事 畢

高永四年壬午十二月六日 中渡

右 田 代 新 村 林 木 爲 場 新 田 知 家 爲 所 成

定 地 六 畝 枳 木 何 々 何 々 何 々 何 々 何 々 何 々 何 々 何 々

明 和 二 年 一 統 中 渡 定 家 指 導 事 畢 亦 成 以 爲 持 參

係 事 之 凡 交 長 條 表 之 後 家 別 指 引 之 唱 何 々 何 々

春 秋 爲 度 之 或 本 宛 跡 之 爲 案 亦 記 一 々 亦 札 之 有 持

付 之 也 不 得 有 之 持 之 之 後 亦 上 指 引 以 後 中 渡 亦

當 附 之 也 指 引 亦 致 上 亦 指 成 亦 以 一 々 亦 科 亦 持 致

周 八 別 斗 之 也 持 交 係 之 枳 枳 栗 之 九 亦 類 八 邊 在

山林の地は山用もお年下り不年と書きとてお成候  
と仰り候に有る形因部林土有るは成候は條と仰り  
且山邊も有る流年竟春の候も成候と仰り候  
有候は成候は成候と仰り候は成候と仰り候  
事は成候は成候と仰り候は成候と仰り候  
善秋成候は成候と仰り候は成候と仰り候  
海柵も有る事候は成候と仰り候は成候と仰り候  
も有候は成候と仰り候は成候と仰り候  
檢見席得と成候は成候と仰り候は成候と仰り候

一長久物成候は成候と仰り候は成候と仰り候  
成候と仰り候は成候と仰り候は成候と仰り候  
右の成候は成候と仰り候は成候と仰り候

未定十二月

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

安永入申年七月十九日 中渡

中渡

和島新田領下村之月日林之小山部之百姓家列  
春秋表之松林栗之竹等其外用之雜木植之  
去未三十二月中渡小高年七右植之場与初年  
号植之節植之松字得之足分之是後方是  
多之能之可之場府之之要細之長之

申七月

寛政元年十月  
 中後  
 此代官新田村...  
 候...  
 地...  
 寸...  
 早...  
 定...  
 右...

寛政元年十月

中後

此代官新田村...  
 候...  
 地...  
 寸...  
 早...  
 定...  
 右...



此補章の... 姓... 姓... 姓...

- 一 年々出生... 姓... 姓... 姓...
- 一 氏... 姓... 姓... 姓...
- 一 引... 姓... 姓... 姓...

一 丙八月六日... 姓... 姓... 姓... 姓...

申九月



寛政六十年三月

中後

湯科新村に山林を設け其地所を支配す御有是に一五丁  
 見分設出級小お及左條方丈之三丁付後小御有是  
 亦如槍尼之節一丁と申すは此村に幸右山林下道之  
 入山事も難お個差他土尼分節八丁御事は此山  
 片是也其後故は用本代か或も山林尼分小御有是  
 此山は山林小御有是も多分増減有之一時小御有是  
 此山は山林小御有是も多分増減有之一時小御有是

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

出系送來仕集之物去取不限其代其是為其及  
其也者此見分市又以其用透之也考其越見  
而此也其帳其及之其及不見其及改其及  
其初林入用不其及加其及  
一者見其及其及其及  
林限其及改其及其及  
可其及其及其及  
其及其及其及  
其及其及其及

有本詳正其及

廿二月七日

石通也其及一統其及  
其及其及其及  
其及其及其及  
其及其及其及  
其及其及其及  
其及其及其及  
其及其及其及  
其及其及其及  
其及其及其及  
其及其及其及

及山海野棠木格列之少为成。昂和初影同知也。雖其  
成定地多之。竹木之。八苗木柱有以林而之。此  
送所味之。其相。

丑二月

寛政丑丑年十月

法同以林本致。乃之。依先達。中。海。之。竹。其。長。性。同。之。身。  
終。本。門。之。節。不。如。及。竹。性。而。足。節。如。竹。性。下。改。出。本。致。野。  
交。有。之。身。彈。出。大。弱。能。中。上。如。右。皆。林。改。方。之。改。以。  
竹。後。少。是。之。和。矣。是。也。也。林。致。美。而。之。性。其。不。沈。  
有。斗。身。方。之。改。出。之。身。之。改。方。其。美。意。以。而。林。之。一。版。  
之。改。有。于。既。文。為。門。節。之。身。右。之。性。其。一。統。乃。方。有。  
之。改。下。其。身。之。身。又。彈。正。大。弱。能。也。也。皆。林。改。方。之。改。以。  
篇。可。致。也。也。皆。林。改。方。之。改。以。其。性。其。不。沈。也。也。皆。林。改。方。之。改。以。

目斗之一向之木... 功不七用... 無由引苗木植... 云名是文... 惟而若出... 能可長... 十月... 廣田... 何復

寛政六亥年十月

郡之御林... 仍而... 廣田... 此年書... 御林... 右... 一五列...

- 一 御林之向木...
一 右...
一 五列...

一 是年八月十日  
右 類 可 乃 乃 乃 乃 乃  
一 九月十日  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一

又改曰乙未年二月十七日

此林日本爲之場不苗木植方在入方之流前之申後五年  
做之也其所以改所之者以之植竹方而以而此林也其  
或也其所以其木爲之營所之也植竹方之野而此林也其  
植竹方之也以林之其時也而中且因之而地味也其  
出也其所以其表之連這其利也此林也其所以其場不之也其  
可也其所以其林果園窮人其未之矣其植竹方之而而也其  
接列植竹方也其所以其林也其所以其得之其利也其時也  
其也其所以其竹也其所以其竹也其所以其竹也其所以其竹也

柵有り入方丈形石遊年以用之節也受不成就遊  
百個以上林柵面小苗不植之切木に紐入之成木は  
多ふくも木に相成居は場新し方寸も不所之場新と連  
五個本木に紐入之積り林境目之成竹の場新と紐  
為り之附之代也村席連とお札重之節も此用席  
以爲定方山善法候ものも有見は保可有之方寸も  
之を和知のり

一 山林に引續く古姓持林は之木伐拂置て干附村家  
支取は為り之附之代也此是境目小河と見高は之去

後裁お居為候存候之候

一 山林に入方寸も若くは貸付合木致多し衣利金も入  
る如く場新も右貸附之合字も不利合木候は相  
之有候之候也

一 此山林或も此之山に留い前も山林柵面を書載置  
端不し方寸も或も右御之御新し方寸も海も右御  
之山林柵面に紐入之候之候也

文政四年十一月六日達

國之山林は昔より本代名義に枯死枯野大枯木相成り本  
不耕之海に何れも海地之故に百山本穀之趣一平野  
苗木植之候に後植有後友之年辰相立之由之由枯  
小苗木之原に祖述を以て之を改す

但本文何れも原に苗木植之候に新義本穀不何  
書ありの内言加へて之を以て之を改す

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

文政六年六月

也信

山林本落... 苗木植... 其時... 植... 也信... 一... 將... 組... 入... 後... 天... 外... 山... 林... 子... 入... 方...



一 備前所領石貨附合元方至亦利合亦後臣初之度御  
三年

右 經吉乙年二月中石貨附合元方至亦利合亦後臣初之度御  
至教管經又中亦下

備前所領石貨附合元方至亦利合亦後臣初之度御  
三年

天保七年甲午

天保七年甲午

涉後

此林並木損亦伐挿小地苗米移植付小振村  
並植付以後七所用席子附身代見廻り振三致与作  
後形知事累下以之

申十月七日

善山九八節代小礼

範文信助平

外一同出後連下

小礼

本文唐書之類以心後御付是初前七何文後  
二内小書載下中其年

*[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

天保七年十二月十日 日蓮

山林換木伐拂以地苗木移植身以松材中後是  
植身以後以用布子附文及也松下波合

但此以後以拂何云部命何文後之何下書載之

中合

天保八年八月 蓮  
新折村山林竹木之茂  
徳之木採能合採  
竹之古木  
自入方  
成上  
損亦  
外  
中

天保八年八月 蓮

新折村山林竹木之茂  
徳之木採能合採  
竹之古木  
自入方  
成上  
損亦  
外  
中

之端亦十力備付還第並本之條少之  
 女師以苗木柱付付用杖之  
 徐百姓林之使也同和工石斗分材  
 百師亦七散至之平付長白居華余之  
 却ありい意度也何也  
 志右有路見是也  
 右云致若与殿人信所信有口後り  
 天保八年六月十九日

天保八年六月十九日 日達

苗木柱付付入方管之使見是之  
 法國也林之條付付用杖之  
 苗木柱付付入方管之使見是之

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the date "天保十一年二月十八日".

天保十一年二月十八日

字行

竹林寺別行役

以本教以振梅本行役

一換本行役

秋代古不 見  
秋高分只預本見

竹 村

大町寺之竹林寺字之而之申分又之寺之村之竹林教之不

之寺之寺之熱作之及別寺路本教之徳寺之換本行役

之府之之徳寺

以信

竹林換本行役又之竹林寺之申分又之寺之村之竹林教之不

接合より有る相徳具又右損本儀に海地及音書  
付書付林帳小苗本之原に租入方古同古同書之末に其  
後相徳ノ下中旨御座候事知奉申候事此儀上之

二月十八日

小室宗信物代

伊東守之節

又出役一同連年

天保十二年七月 中後

御料新村山林儀七場所支取に御付以之七下色了足分  
に一本敷に御方丈に御付七御座候事此儀相徳に  
前七一日より上村事少之御座候事此儀相徳に  
難お相儀作不見分前七御座候事此儀相徳に  
其儀在御用本儀出取に御座候事此儀相徳に  
帳本取本多分増帳之儀一本取御座候事此儀相徳に  
依七別段に御座候事此儀相徳に御座候事此儀相徳に  
仕奉之御座候事此儀相徳に御座候事此儀相徳に

見分席又之清用遠致お為お致之元高の上は林根お  
改り取立致し右足分致し使も農隙に初村入用吊掛  
根取希と加して取反り支取可一各之見分お附し致し  
お色之取お個に中り致し高寄由林根見分改立爾  
お附り由し高林根お改し御定而之に高り、取し由  
此御定方由寄取取亦由用席又之別使し高之右之  
高り由し取希おお附掛到入意に高り  
右之通寛政以子年中渡金に和近來は林并並木に入方  
向御取立之根木に方より高り、高斗向中、及近引之取希

之取希にお付如く事より以後寛政度清取之基  
此林根お改り取し向御取立之根方中取希、向御取立  
根木より高り取希、取希方お付御取立之根木に取立之根  
中寄苗木取希方、取希根付其取希時節お取希苗木取希  
代採録地へ苗木に中取立之根木方、取希方、取希方、  
取希方、取希方、取希方、取希方、取希方、取希方、  
列取希方、取希方、取希方、取希方、取希方、取希方、

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

天保十四年七月

以清

諸國村長林依立枯根近風折出言換本有之而  
于砌打而色色代見分之上新之亦我本之難成致  
多分村家法之積打相來知不屋人等之節之素分村役  
多引更之為知之受之有之知能是知限中之利  
解之之能然止由之迷惑之其引之換引更限中之  
向者之有之為例之換之換成之事實之細細而  
其有向後之我本之其分之多如編之余我本上之其



成美公より入會し有りしりり菊也一積五斗山林遠道  
 其市地理津出方船路之極子篤之甚并以之代出子  
 百上丁方運賃亦しゆ夫古考了感文也丁方積五斗勿御  
 傷和拉涌り船路不便し去地又て入會し少く我亦不  
 菊也しし難成多て是近し近お即入札邊外村實也  
 以味等し見合運賃之安是近を隔りし以耕者農思  
 房方少向し方し也何し何回村も勿御了感文也  
 村方見合運賃下ヶ札後下し書留

卯七月

